

社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 平成20年度第1回通常総会議事録

日 時 平成20年6月19日(木) 18時30分～19時30分
場 所 (財) ブルーシーアンドグリーンランド財団 会議室
東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル

1. 定 足 数 の 確 認

出席会員14名、委任状36名、合計50名。従って正会員現在数83名の2分の1を超えて定款第28条(総会成立)の定足数に達しており、本総会の成立を確認した。

2. 開 会 の 挨 拶 石原 伸晃会長代理岩崎 純秘書

石原会長が公務で多忙のため出席出来ないのので、岩崎 純秘書が代理で開会の挨拶を行った。

本日は公務で多忙のため出席出来ないが会員、役員の皆様にくれぐれも宜しくお伝え下さいとのこと、総会は佐藤副会長のご指導で進めて頂き成功裏に終了する事を祈ります。
春のオープン大会は山中湖での東日本地区大会に一日だけ参加しましたが、和歌山で行われる今年の全国大会(国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008)は、最終日閉会式には是非参加させて頂きますとの事です。

3. 来 賓 の 祝 辞

(1) (財) B&G 財団、大島 康雄常務理事

毎年総会会場として当センターを利用頂き感謝しております。

(社)日本ジュニアヨットクラブ連盟は青少年の健全育成のためのヨットの普及活動に大変貢献されています。今年の北京オリンピックのセーリング競技にはジュニア時代に活躍した選手たちが出場するということで期待しております。

これも石原会長はじめ皆様のご努力によるものと感心しております。

B&G 財団は全国に、480の海洋センター、284の海洋クラブがあり、ヨットやカヌーで水辺のスポーツ活動を行っており、貴連盟の協力を頂きプールでのヨットイベントや B&G ヨット大会を東西2ヶ所で開催しましたが、台風のため東地区中止となり、西は上級者から初級者まで153名の多数の参加で大成功でした。

これからも海の素晴らしさを広めるべく一緒に事業展開して行きたいと思っております。

(2) (財)日本セーリング連盟、前田 彰一専務理事

JSAF は「普及」「勝利」「文化」の3本柱で事業を進めている。

J.J.Y.U. には「普及」に大変協力頂いている。「勝利」は今年の北京オリンピックでジュニア出身の近藤選手や関選手が、子供達に夢を持たせる活躍が期待される。

「文化」は昨年 JSAF が75周年を迎えて、時代は環境の問題が重要視されており、ヨットは環境にやさしいスポーツであることを広く知らしめたい。

先週、洞爺湖でサミット・ウェルカム・ファミリー・レースを開催、60 艇の参加で子供達に夢を与えられるレースが出来た。

4. 議長選出

定款第26条により会長が議長を務めるところ、公務で欠席の為、定款第14条第2項により、佐藤精知夫副会長が議長に選出された。

5. 議事録署名人選出

定款第30条による議事録署名人選出は議長一任の議決により、以下の2名が議長より推薦され全会一致で選出された。

小村 孝 氏（東京都ユースセーリングチーム代表）

井上 洋子 氏（佐島ジュニアヨットクラブ代表代理）

6. 議案審議

1) 第一号議案 平成19年度事業報告書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成19年度事業報告書(案)の説明を行った。

今年2月の通常総会時に中間事業報告書で説明したように、例年通り、春の日本少年少女オープンヨット大会を東日本地区は長野県野尻湖でアビームコンサルティング(株)の特別協賛を例年通り頂き、西日本地区は四国新居浜市で地元今治造船(株)の特別協賛を頂き盛大に開催出来ました。夏の全国大会(国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2007)は東京都ヨット連盟の協力を頂き若洲ヨット訓練所で開催、秋には同じ若洲ヨット訓練所で「ミキハウスカップ」を行い大変実りの多い年でした。

「ユースセーリング」も新広報委員長により、10月と3月の2回発行出来ました。

退会、休会のクラブが増えて、クラブを代表する正会員が少なくなってきており、総会資料作成後に現況の変更が判ったクラブもあるので下記訂正をお願いする。

新規加盟クラブは北海道の「室蘭ジュニアヨットクラブ」、休会から活動復活したクラブが「諏訪湖ジュニアヨットクラブ」と「小豆島ジュニアヨットクラブ」で、漸く連絡が取れて休会になっていることが判明したのが「北九州ジュニアヨットクラブ」で、現在活動しているクラブは65、従ってクラブを代表する正会員が65名。

更に学識経験者である正会員は、戸田邦司氏が退会されたので18名となります。

その後、議長より第一号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

2) 第二号議案 平成19年度財務諸表(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成19年度財務諸表(案)について説明を行い、主として収支計算書を中心に説明、「財務諸表に対する注記」の債権(未収会費)については新年度になりほぼ全額納入して頂いた旨説明した。

議場より、退会クラブが多くなったが、年会費が不良債権となっていないかとの質問が

あり、退会直前に年会費或いは休会費を納入して頂いた上で退会としているので不良債権化はしていない旨説明された。

議長より、監事に監査報告を求めたところ、大房監事より、石崎監事と一緒に6月4日に監査を行ったが、公益法人会計基準に従い公正妥当なものと認められる旨報告された。又、理事等役員の業務執行についても特別問題になることは無い旨報告された。

その後、議長より第二号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

議長は、以上をもって平成20年度第1回通常総会の議案の審議は全て終了したので19時30分、閉会を宣した。

7. 報告事項

1) 第28回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）について

山梨県山中湖村中学校ヨット部代表田辺文得氏が出席出来ない為、小松勇一理事より実施報告を行った。

参加選手数は115名、指導者・保護者110名、役員35名合計260名と参加選手も昨年よりやや大幅に増えて、風と天候に恵まれた良いレースが出来たが、最終日は霧が発生した為に十分なレースが出来なかったものの、カレーパーティーによる良い交流会が出来たとの報告があった。

2) 第28回日本少年少女オープンヨット大会（西日本地区大会）について

内藤武夫理事が出席出来ない為、安井常務理事より実施報告を行った。

安来市（十神山なぎさ公園）で開催したが、昨年に引き続き、JSAF主催の佐賀唐津でのユースセーリングチャンピオンシップ大会と日程が重複した為、シーホッパー級の参加が無くOP級のみであったことと、九州地区OP級大会が直前に同時期開催を決めたことから九州地区からは鹿児島からのみの参加で、OP級も参加選手が31艇と例年より少なかったこと、然しながら指導者・保護者、地元協力者を含め総勢120名の良い大会となったこと、風は弱風、中風、強風と順調に7レース出来たので選手も納得したと思われる。

又、少ない参加者の大会で、出来るだけ経費を安くする為に、手作りの工夫がなされており、これからのあり様を示すものでしたとの報告がありました。

3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2008(和歌山大会)について

和歌山県セーリング連盟山本理事長が出席出来ない為、小野理事より、準備状況、スポーツ振興基金助成が申請額を減額されたが認可された旨報告された。

8. 閉会の挨拶

最後に、佐藤副会長より閉会の挨拶があり、散会した。

退会、休会のクラブも多いようだが、一方で長い間オープン大会東日本地区大会と一緒に開催してきた「諏訪湖ジュニアヨットクラブ」が活動復活したという嬉しいニュースもあり、今後は山中湖と諏訪湖で数年毎に交互に大会が開催出来たら良いと思います。

来年10月には2016年のオリンピック開催地が決定されるので、東京都での開催誘致の応援の為にも、その前の時期である8月に「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」をオリンピックのセーリング競技会場となる若洲で開催し、沢山の外国チームを招待して、本国に戻って東京都の良さをPRして貰う様な良い大会にしたい。

(19時30分終了)

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は記名、押印する。

平成20年6月19日

議長

東京都杉並区本天沼3-23-2

佐藤精知夫 (印)

議事録署名人

東京都港区南青山3-14-28

小村 孝 (印)

(東京都ユースセーリングチーム代表)

議事録署名人

調布市入間町3-20-5

井上 洋子 (印)

(佐島ジュニアヨットクラブ代表代理)